木曽川文庫

kiSso

Vol.29
1999 WINTER

木曽川文庫は治水の資料館。
水の大切さや恐ろしさを歴史から学び、
これからの治水を皆様とともに考えていきたいと思っています。
冬号は御嶽山南麓の王滝村から水源地の状況を
伊勢湾台風第五編では、復旧計画と工事概要を特集します。

INDEX……

ふるさとの街・探訪記《長野県王滝村》
◆御嶽山南麓の王滝村は、豊かな自然の宝庫

AREA REPORT
◆緑のダムを守るために、広がる交流の輪

気ままにJOURNEY
◆パウダースノーの舞い降りる雪山に、
新しい伝統の灯がともる

歴史ドキュメント
◆伊勢湾台風復旧堤防計画と工事概要

TALK&TALK
◆伊勢湾高潮対策事業、本復旧工事にまつわる思い出

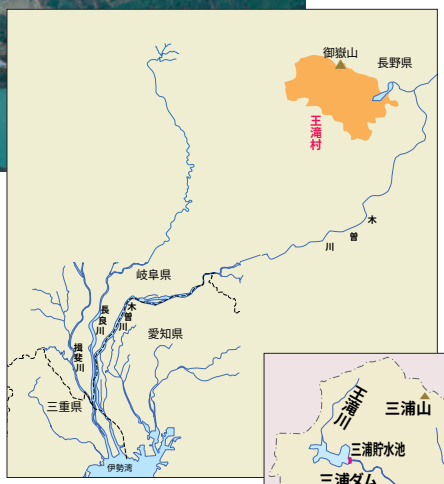
民話の小箱
◆下島の弘法清水

建設省中部地方建設局
木曽川下流工事事務所

御嶽山南麓の王滝村は、豊かな自然の宝庫

木曽谷の最奥、御嶽山の南麓に抱かれた王滝村は、ほぼ全域を山林原野が占める典型的な山村です。産出する木曽檜は、日本三大美林の一つにも数えられる良材で、近世以降、林業は村の主要な産業となっています。また、江戸末期、御嶽山王滝村登山道が開かれると、御嶽信仰の拠点として成長。御嶽山を中心とする観光にも力が注がれ現在は、「美しい自然と素朴な人間味ある豊かで住みよい里」を目標として、さまざまな事業が実施されています。

王滝村の航空写真



王滝村の地形図

御嶽山南麓の王滝村、その名の由来

長野県王滝村は御嶽山南麓の山村です。木曽川の支流王滝川の源流域にあたり、東半部は三岳・大桑の両村と上松町、西半部は岐阜県にそれぞれ接しています。

村の面積は木曽谷の中でも最大ですが、人口は最も少なく、山林原野が全面積の九五%、そのうち八七%は国有林です。特に、南部の瀬戸川国有林は伊勢神宮の造営にも使われる檜材の産出地で、山国木曽の中でも代表的な美林として知られています。

耕地は村域のわずか〇・二%。集落は村のほぼ中央を東流する王滝川に沿って散在し、若干の稲作、畑作を行うほか、大部分が観光・山林業に従事しています。

村の名に「王」の文字を冠しているのは、全国の市町村でも、王滝村のほかに一カ所のみ。平安時代、後白河法皇が急病になられたとき、近侍の人々は病気平癒を御嶽山に祈願されて無事全快。その折り、後世に残る証として、法皇の「皇」の字から「王」の文字をとり、王滝村とすることが許された、との伝説が残されています。村の名には、御嶽から王滝に音が変化した、との説もあります。ともあれ、王滝村は、霊峰御嶽山とともに歴史を重ねてきたところ。村の北西部は御嶽県立公園に属し、御嶽山を中心とする観光スポットとして、また、御嶽信仰の拠点として、多くの人々が訪れています。

三浦氏落人伝説と村の始まり

三浦ダムに没した王滝川源流、三浦平の一角（昭和3年3月）
右から本谷、左から五味沢が合流する。中央の森林地帯の奥に三浦太夫塚と三浦屋敷跡が七百年の歴史を秘めてひっそりと眠る。

標高二千m近い御嶽山・三笠山の山腹から先土器時代の遺物が出土しているのが王滝村での最も古い例。縄文時代の遺跡は御嶽神社里宮遺跡、崩越（くずとし）遺跡が発掘されており、古くから先住民がいたことを物語っています。

奈良時代になると、都と木曽を結ぶ官道吉蘇（きそ）古道が開かれ、わずかな人々が狩猟を中心に暮らしていたと考えられています。

王滝村に集落が形成され始めたのは鎌倉時代。三浦半島を拠点に栄えた三浦氏の一統（和田一族）が三浦平（三浦ダム湖底）に移り住み、その子孫である三浦兼重が滝越を開いた、との伝説が残されています。その後、三浦氏一族は王滝川を下って開拓し、吉蘇古道からも木曽福島方面から人々が入村し、村が形成されました。

戦乱の舞台となった王滝

中世の木曽谷の支配者は、木曽氏一族です。伝承によれば、木曽氏は源氏の流れを汲む木曽義仲の末裔。室町幕府初代将軍足利尊氏が木曽家村に木曽を与えました。

応仁の乱以降、この地は戦乱の舞台に。永正元年（一五〇四）飛騨の三木重頼が王滝へ侵入、王滝城は落城し木曽義元は敗走する際受けた傷がもとで死亡しています。その後、甲斐の武田信玄の軍勢が鳥居峠を越え、王滝城を攻撃。城にたてこもっていた木曽義康は降伏し、木曽氏は武田氏の臣下となりました。

京都の豪商角倉（すみくら）家と木曽式伐木運材

木曽檜は秋田杉、吉野杉と並び、日本の三大美林地帯と呼ばれているところです。豊富な林産資源が飛躍的に伐り出されるようになったのは、豊臣秀吉の時代から。秀吉は木曽を蔵入地とし代官は大山城主石川光吉を任命。大阪城、聚楽第、方向寺大仏殿、伏見城等、あいつぎ造営事業に使われるようになりました。

関ケ原の戦いの後、徳川家康が木曽を蔵入

地としています。家康は木曽一族の臣下、山村良候を「木曽谷中代官」に任命。木曽の全山林のほか、木曽川と飛騨川の運材を支配させました。また、京都の豪商、角倉了以を材木奉行に登用。了以は祖父の企業家精神と医者であった父の科学的精神を受けて、朱印船で海外交易（角倉船）を行ったり、国内では技術と工夫を駆使して河川開削事業を手がけ、京都の高瀬川をはじめ、富士川、天竜川、大堰川を開削しています。

角倉了以の木曽谷での業績は、木材を大量に運搬することができる木曽式伐木運材法を開発したことです。この新しい方式は、明治時代、中央線が開通して、鉄道による陸送にかわるまでの三百年間、利用されました。

木曽式伐木運材法は木曽谷の最奥から、木曽川の本流に流れ込んでいる大小無数の渓谷と木曽川本流の豊富な水流を利用して、木材を流送する方式です。

木曽谷からの木の伐採に従事する林業労務者は、大きく「杣（そま）」と「日用（ひよう）」に分けられます。杣は山での木の刈り出し（伐木）と材木への加工（造材）が主な仕事です。日用の仕事は、材木の運搬作業です。その工程は、まず伐木をした場所から木曽川支流の渓谷の中小河川まで材木を運び出す「山落とし」、次に中小河川から木曽川合流点まで流し落とす「小谷狩り」、それから美濃国錦織にある綱場まで、材木を一本ずつ管流しする「大川狩り」に分けられます。ここまでが日用の仕事で、錦織に集められた材木はこの湊で筏に組まれ、今度は「沖乗り」と呼ばれる者たちにより、尾張国熱田白鳥にある貯木場に運ばれるのです。

ヒノキ山材の元伐りの作業

角倉家は寛永～寛文年間（一六二四～七三）の約半世紀にわたって三浦山の伐採を行い、寛文二年には檜三万本という莫大な量の伐採を行っています。角倉家以外には、正保元年（一六四四）、岐阜の豪商、長良助右衛門が、同じ頃、豪商土佐屋も三浦山に入るなど、大量の檜伐採が行われました。

檜一本首一つ

徳川家康は木曽氏の配下であった山村氏を代官に任命。山村氏による木曽支配は、尾張藩領に移行されてからも継承されました。

こうして木曽谷は、一大林業地帯に発展しますが、杣や日用は最初から木曽にいたわけではなく、伊勢国や伊賀国などの畿内の先進林業地帯から呼び集められました。そして、膨大な需要に支えられた度重なる木材伐採の繰り返しの中で、「木曽杣百組」といわれるほどの熟練労働者を輩出し、奥地の村とはいえ、経済的にも恵まれました。

耕地が少なく稲作に適さぬ木曽谷の年貢は木年貢。榑（くれ）や土居（ど）と呼ばれる短い木材を村から年貢として納入させていました。

しかし、大規模な伐採による森林資源の枯渇の危機に直面した尾張藩は、寛文五年（一六六五）、上松に木曽材木役所を設置して、代官山村氏の影響力を縮めながら藩の支配力を高めるとともに、伐採禁止区域の「留山」を設定して、森林保護に努めました。また、宝永五年（一七〇八）には、檜・椹（ひのきさわら）・明日檜（あすひ）・槙（まき）を全面伐採禁止、つづいて、享保六年（一七二一）には鼠子（ねずこ）を追加し、ここに木曽の五木といわれる停止木ができあがるのです。後に「檜一本首一つ」といわれたほどの厳しい林野管理は、このように始まりました。

御嶽山開山普寛行者像

こうして林業が衰退すると、人口も減少の一途をたどります。これは杣や日用の仕事が少なくなったため、他地域へ山仕事の技術を生かして出稼ぎに出かけ、帰村しない者が多かったことに起因しています。

出稼ぎ者の多くは秩父へ行っていますが、これら出稼ぎ者と秩父の修験者の交流が御嶽信仰へと結びつき、秩父出身の普寛行者の王滝村への来村が、寛政四年（一七九二）の御嶽山王滝村登山道の開削につながりました。

観光立村とダム開発

明治二年になると、王滝村は尾張藩から名古屋県になり、さらに筑摩県となりました。明治二二年には村制施行により、長野県西筑摩郡となり、昭和四三年の郡名変更により、木曽郡王滝村となりました。

御嶽山の崇拝登山は、普寛行者によって王滝口が開かれて以来、関東方面での信者が増加し、明治になって観光村としての幕開けを迎えることとなりました。また、広大な山林は尾張藩の所有から皇室所有の御領林となりました。この御領林はやがて国に移管されますが、尾張藩の森林保護の政策は踏襲されました。

昭和になって、王滝村に二つの巨大ダムが建設されました。その一つは昭和一八年、王滝川源流に完成した三浦ダムで、戦後全国各地に電源開発で巨大ダムが建設されるまで、日本一の規模を誇った電力ダムです。もう一つの牧尾ダムは、愛知用水の水源施設として、昭和三六年に完成。愛知用水事業は木曽川の水を活用し、岐阜・愛知にまたがる三八市町（当時）への農業用水や工業用水、水道用水の供給を目的に、わが国最初の国土総合開発事業として実施されました。

愛知用水の水源・牧尾ダム

長野県西部地震と復旧事業

昭和五九年九月一四日、王滝川を震源とするマグニチュード6.8の大地震は、一瞬にして平和な村を悪夢のような修羅場に変えてしまいました。この地震により大小多数の斜面崩壊が発生し、そのうち最大のものは御嶽山八合目（標高二五五〇m）付近に発生したいわゆる御嶽崩れ。土砂崩壊の規模は国内にあってはもちろん世界的にも稀にみる規模で、死者二九名、被災戸数五一七戸、公共土木被害額一二〇億円を超す大災害となりました。

災害復旧対策としては、王滝村と村外を結ぶ重要な生活路線である、県道御岳王滝黒沢線や村道の整備はもちろんのこと、砂防・地すべり激甚災害対策特別緊急事業などを導入するなど、万全の体制で実施されました。

現在は、「美しい自然と素朴な人間味ある豊かで住みよい里」を目標として、第二次王滝村長期振興計画が策定され、下水道の整備や社会福祉の充実など、さまざまな事業が実施されています。

■参考文献
『村誌王滝』　上下巻王滝村発行
『震災～長野県西部地震災害復旧の記録』
　長野県木曽建設事務所
『写真集王滝』　王滝村発行
『郷土木曽～歴史編』
　木曽教育委員会発行
『信州の歴史と文化』
　信州大学「信州の歴史と文化」編集委員会編
『長野県地名大事典』　角川書店

緑のダムを守るために、広がる交流の輪

王滝村は、水と緑のふるさと。
王滝川に建設されたダムは、電力資源として、水資源として、下流市町村に恵みを与えてきました。
また、緑のダムと呼ばれる森林は、環境保全に大きな役割を果たしています。
こうした水源の村を守るため、上流域・下流域が一体となった広域間交流が活発化。
さまざまな事業が盛んに行われています。

長野県西部地震で出現した自然湖

守ろう！緑のダムを

標高三〇六七m、霊峰御嶽山の南麓にいだかれた王滝村は、水と緑のふるさと。御嶽山の剣ヶ峰から屏風のように峰が連なり、木曽檜に代表されるような美林を育て上げました。山々からの渓流を集めた王滝川の豊かな水は、早くから、産業近代化の資源として注目を集めていました。

村内には、三浦ダム、滝越ダム、牧尾ダムが相次いで建設され、これらのダムは、電力源として、水資源として、下流地域の暮らしに大きな恩恵を与えています。こうしたダムに加え、王滝村には、大切なダムがあります。

森は緑のダム。こう呼ばれるほど、森林は保水能力に富み、しっかりと根を下ろした土壌は、土砂崩落などの危険を未然に防ぐという、高い治水能力を有しています。「川を治めるには、まず、山を治めるべし」。近代治水事業に貢献したオランダ人技師ヨハネス・デレーケの言葉です。近年のように、渇水や集中豪雨による土砂災害の発生は、治山治水の大切さを訴えかける、自然界の警鐘だといえましょう。

森と水の里を襲った大地震

森と水に恵まれた王滝村にも、忘れられない悲劇が起きました。昭和五四年の御嶽山噴火に次ぎ、五九年には、御嶽山南麓を震源とした長野県西部地震が発生。時速二〇〇kmを越える土石流は、王滝川に自然湖を出現させ、林道王滝線は埋没。絶景「氷ヶ瀬峡谷」はその絶壁にかかる吊り橋とともに流出し、風光明媚なこの地にも大打撃を与えました。

愛知用水の水源である牧尾ダムはこの烈震にも耐え、その安全性を確認されました。しかし、地震後、ダム上流からの土砂の流入は地震前の六倍に。ダムの貯水機能に大きな影響を与えました。

その一方、平成六年には、江戸時代以来の水飢饉と呼ばれる渇水が発生。こうした自然災害を背景に、「緑のダムを守ろう」という気運が、下流域の市町村にも生まれました。

活発化する広域間交流

緑のダムの効用は、治水や保水だけではありません。「森林浴」にも代表されるように、森の清冽な空気は二酸化炭素の吸収や環境浄化に効果をもたらすばかりではなく、心の潤いや優しさなど、物心両面にわたる効用が見直されています。

近代化・情報化が進んだ都市環境から消えつつある四季の変化。自然とのふれあいは、育ち盛りの子どもたちにとって、大切な環境であり、教育の場とも言えましょう。

こうした自然環境の素晴らしさを、ハード及びソフトの両面から捉えた事業が、広域間交流です。上流の王滝村と下流の市町村が一体となって、教育交流や植林事業を実施しています。

《半田市の森》

愛知県半田市は、三河湾に面した海辺の町。生活・産業用水のほとんどが牧尾ダムを水源とする愛知用水でまかなわれています。異常渇水に見舞われた平成六年には、一九時間断水という日も。この渇水を契機に、平成七年から水源地を守る植林事業が始まりました。植林地は牧尾ダム上流約一二km、王滝川左岸の山斜の約一・六ha（国民の森内）で、長野県西部地震の崩壊地。トチ、ヒノキ、クリなど三千本の苗木を植樹。実際の維持作業は、すべて地元の森林組合に委託し、成木の収益はすべて森林組合に贈る計画です。この植林地は「半田市の森」と名づけられました。

国民の森

さらに「水源の森を守るつどい」では、半田市内小学校児童と保護者が水源地の王滝村を訪ね、森林組合の指導を受けて下草刈り作業を体験し、森を維持する難しさを学んでいます。この事業は、毎年開催。一方、平成八年には王滝村の小学生を半田市に招待し、愛知用水の調整池や「水の生活館」などを見学。「水」を通したさまざまな交流が行われています。

知多半島では、半田市のほか東浦町や大府市、常滑市などの市町村が、広域間交流を実施しています。

《銀河の森》

愛知県東郷町は、名古屋市郊外のベッドタウン。愛知用水のとりもつ縁で、王滝村とのいろいろな交流事業を行っています。その一つとして、東郷町民が王滝村内の旅館、民宿などに宿泊した場合、その一部の宿泊費を助成。王滝村からは三〇tの雪がプレゼントされるなど、交流事業も活発です。

その一方、東郷町と長野県営林局は「分収造林」（個人や団体が国有林に植林し、将来の収益を双方で分配するもの）の契約を締結し、平成八年約三haの土地に九千本の檜を植樹しました。この地を「銀河の森」と命名しています。この檜を八〇年後に伐採し、その収益を国と東郷町で分配する予定です。

銀河の森

フォレストパル王滝塾と都会の子どもたち

フォレストパル王滝塾

フォレストパル王滝塾は、山村交流事業の一環として、平成九年に誕生しました。

王滝村の雄大な自然と素朴な人情。恵まれた環境は、王滝村で生まれた子どもたちにとって大切な財産ですが、過疎化による少子化などの課題も生じています。その一方、都会の子どもたちは、都市化による環境の悪化など、大きな課題をかかえています。

こうした都会の子どもと山村の子どもが、ともに学び、新しい情報と新鮮な刺激を分かちあい、人間性豊かな子どもたちを育成することが、塾の目的です。

フォレストパル王滝塾は、営林署の元宿泊施設に本館を増設して建設。一年以上ここに生活し、地元王滝小・中学校に通う長期交流事業と週末や夏休み・冬休みを利用した短期交流事業を行っています。

長期交流事業＝山村留学に参加する子どもたちは、現在二九名。小学三年生から中学生までの子どもたちが、ここで寝起きをともにし、キャンプや山菜採り、畑作体験など、山の暮らしを体験しています。

王滝塾創立に奔走し、塾長を務める高山先生は、子どもたちの暮らしぶりをこう語ってくれました。

高山修塾長

「僕は子どもたちに『生きる力』を身につけてほしい。ここでは、食事以外、洗濯から掃除まで、全部、自分たちでやっています。もちろん最初は、親を恋しがったり、山の環境に溶け込めない子どももいます。山の空気は都会と違って澄みきっていますから、逆に変調をきたす子どももいます。でもそれは、当初一～二週間のこと。子どもは本来生きる力をもっていますから、後は、ケロッとしていますよ。もちろん、逃げ出す子もいます。バスやJRに乗ってね。そういう交通手段も最初から教えておく。なんでもできる自立心を、ぜひ、身につけてほしいと思っています。山村体験の一番の特長は、自分たちのおやつになる、柿や栗の植林や階段の整備など。いい顔してますよ。うちの子どもたちは、出身地も九州から関東まで実に広いのですが、夏休みになると、お互いの家を行き来したりして、地域性なども学んでいると思います」

南久美子先生

学校が終わる四時から五時になると、三々五々王滝塾へ帰ってくる子どもたち。おやつを食べながら、アドバイザーと呼ばれる塾の先生方に今日の出来事を話す子どもたちの目は、キラキラと輝いています。

ここは、高山先生をお父さんとした大家族。食堂のピアノで、楽譜を見ながらトツトツと弾く子にピアノの得意な上級生が教え、それを取り囲む子どもたち。その日常を王滝小・中学校の教師とアドバイザーを勤める南久美子先生は、こう語ってくれました。

坂元辰匡君、小学校5年生

「みんな、キラキラしているでしょう。でも、入所当時は、いろんなことがありました。実際、まだ子どもですから。それを乗り越えた自信があるんでしょうね。胸を張って生きてる、そんな気がしています。教師としては見ることのできない、暮らしの素顔に出会うこともできますから、勉強になります」

「妻籠に行ったり、ブドウ狩りをしたり、とっても楽しいよ。スキーも初めて滑ったし。今度、野球チームができるんだ。もうすぐユニフォームもくるんだよ。僕はバッター希望。がんがん打ちたいな」とは、名古屋市西区出身の大矢悠泰君の弁。

大矢悠泰君、小学校4年生

大阪府吹田市の松下伸也君は「こっちの人は優しいですね。普通なら怒ることでも、ニコニコ笑いながら理解してくれる。部屋の掃除や洗濯も、慣れればたいしたことありません。でも、CDやファミコン、マンガが買えないのが寂しい。お店はありませんから。都会は都会なりの良さ、こちらはこちらの良さがありますね」客観的な観察力はさすが中学一年生。同じく中学二年生、神奈川横浜市の仙波まどかさんは、

松下晋也君（右）と吉崎太郎君（左）、中学校1年生

「一緒に住んでいるとわかりあえたり、けんかしたり、友だち関係がいろいろです。親元にいれば、決して見えてこなかった面が見えてきたりして…。でも、私は二年間、ここにいようと思います。王滝でしか体験できないことを、一日一日大切にしながら過ごしていきたい」

留学を終えた子どもたちが体得したもの。そしてその後の成長が、山村交流の成果であり、環境保全事業の明日の姿なのでしょう。夕やみに包まれたフォレストパレ王滝塾から、子どもたちの笑い声がささなみのように広がっていきました。

仙波まどかさん（左）と山口絢子さん（右）、中学校2年生

パウダースノーの舞い降りる雪山に、新しい伝統の灯がともる。

吐く息さえ白い朝。
湖の立木は美しい樹氷をまとい、
氷結した湖面は、蒼い空を映し出す。
森も谷も里さえもおいつくした雪の白さは、
人の心さえ、純白に染め上げるのであろうか。
清く、澄みきった冬の朝。
神々の山、御嶽もまた、新しい朝を始める。

エメラルドグリーンに輝くうぐい川

御嶽の営みは、自然の源流

ピーンと張りつめた寒さにみじろぎもせず、悠然たる姿をみせる御嶽山。目覚めたばかりの太陽は、神々しいばかりに樹氷を照らし出し、山も谷も湖も、白い朝を迎えようとしています。

純白の王滝村へは、名古屋から自動車で約三時間。中央自動車道中津川インターチェンジから国道一九号へ乗り換え、木曽福島の元橋からは県道黒沢線で一直線。

今では丁寧に除雪され舗装された快適な道路も、かつては凍てついた山道。白い装束に身をまとった修験者は、杖を片手にひたすら、御嶽の山をめざしたのでしょうか。白い雪をまとった御嶽山は信仰の山。全山をすっぽり覆う雪は、清冽な清水を生み、清冽な清水は森を潤す。御嶽の営みは、まさしく自然の源流。この営みに人々は神を視たのでしょう。

信仰を求め、厳しい山道を歩いた修験者は「百草」という特産品を後世に残してくれました。

「百草」とは、その名の通り百の草。御嶽山王滝口を開山した普寛行者が「御嶽の霊草百種を採り集めてこれを煎じ、薬を製して万人を救え」と製法を村人に伝えたことに始まるといわれています。

普寛行者ら修験者は、山野に自生する草根木皮についても造詣が深く、薬草の知識も豊富に持っていたのでしょう。もとはといえば、修験者たちが行の間、睡魔を払うためにとびきり苦いものを用いたのが最初。

「良薬は口に苦し」とは、まさにこのことです。お山から授かった薬草は、胃腸はもちろんのこと、万病の薬として重宝されてきました。

百草元祖の碑

信仰の道は、名勝への道

信仰の山、御嶽。その登山道がここ王滝村に開かれたのは江戸末期のこと。百草の開祖・普寛行者に始まりました。以来、御嶽信仰は全盛期を迎え、天保九年（一八三八）には、シーボルト随行画家ナダールが「MITTAKE」と称して御嶽を描き、外国人にも紹介されました。

山岳歴史文化会館

信仰の道は、名勝への道。古くは岩戸権現と呼ばれた御嶽神社里宮、冬になれば氷柱と化す神秘の清滝・新滝。その名勝の数々は、無事、登頂した修験者を幽玄の世界へいざなったのでしょうか。そんな山岳信仰と木曽山の歴史を伝えてくれるのが、御嶽山岳歴史文化会館です。ここでの必見は、巨大な絵馬。京都の豪商「角倉氏奉納絵馬の黒毛馬」をはじめ、「千羽鶴の絵」や「龍虎の図一対」「上島八景絵馬」などが陳列されています。

角倉氏奉納絵馬の黒毛馬

滋養たっぷり、どんぐり料理

山岳歴史文化会館内を訪れたなら、併設された郷土食コーナーへ。人気メニューは、世にも珍しい「どんぐりコーヒー」です。

王滝村ではどんぐりを「ひだみ」と呼んでいますが、このひだみは、もともとアクが強く、食糧にするには大変難しいものでした。しかし、稲作には不向きな王滝村では、昔から非常食として常備。この太古の味を復活させ、数々のメニューを創案したのが、郷土食コーナーを預かる瀬戸美恵子さんたち。現代風にアレンジし、数々のメニューを誕生させました。

瀬戸美恵子さん（右）と田中初子さん（左）

気ままにJOURNEY

「どんぐりのアク抜きは、母から教えてもらいました。母は祖母から、祖母はその母からと、代々受け継がれてきたのでしょうね。どんぐりを餡にしたものや、だんごにしたものがおやつ代わりでした。このどんぐりを郷土食にしようとしたのが一〇年前。もともと、アクが強いものですから、そのアクを取り除き、若い人たちにも親しんでもらおうと、どんぐりパイやどんぐりパンが生まれました」

どんぐりパイは、どんぐりをさらした粉に砂糖を加えた餡を忍にパイにしたもので、上質な甘さとサラリとした舌ざわりが特長。どんぐりパンは、どんぐりをさらした粉をパン生地に練り込み焼き上げたもので、もっちりとした風合いは、都会のベイカリーを遥かに上回る逸品です。

「どんぐりコーヒーは、当初から挑戦していましたが、なかなか難しくて。アクを完全に抜いてしまうとコクが残らない。アクを残すと、エグミが舌を刺す。村の古老はこのエグミを好んでいますが、現代風となるとね。そうしたどり着いたのが、今、召し上がって頂いているどんぐりコーヒーです」

一見、コーヒー色したどんぐりコーヒーは、口にふくめば薬草茶のような味わい。パイやパンとぴったりの相性です。

郷土食を始めて一〇年。数々のヒット作を生み出した瀬戸さんの原動力は「これでは、お金はいただけませんね」という当初の評価でした。この一言がどんぐりをなんとか商品化しよう、新しい伝統を生み出そう、というパワーにつながっていきました。

そんな瀬戸さんの大好物は「すんき」。赤かぶの葉を漬物にしたもので、長野県の味の文化財に指定されています。

「ここは山国ですから、塩もなかなか手に入らない。そんな土地柄でしょうか。塩をまったく使わない、乳酸菌発酵のすんきが生まれたのです。このすんきは漬物だけではなく、うどんやみそ汁、吸い物、ラーメンなど、いろんなダシに使える万グレもの。まさに、ふるさとの味ですね」

残念なことにこれらの商品は、ここ王滝村だけでしか販売されていません。

「全国の名産品が各地で賞える時代ですが、ここ王滝の味覚は、王滝の自然といっしょに召し上がって頂きたい。ふるさとの味はふるさとでなくっちゃね」

来訪者を暖かく迎える館内で、塗のお椀やお盆にしつらえられたお料理は、どれもが絶品。王滝村で新しく生まれた伝統の灯火（ともしび）は、さながら薪ストーブのように、じっくりと暖かく熟成されているようです。

どんぐりパイ

人気メニューの郷土膳

イノブタ料理で舌鼓

王滝村自慢のうまいものは、もう一つ。村営の松原観光牧場で飼育されているイノブタです。イノシシとブタをかけ合わせたイノブタは、あっさりとしていながらコクがあり、鍋によし、ステーキによし、焼き肉によし、のツワモノです。まろやかな味わいは、ついつい、箸が進んでしまうほどのおいしさです。

そのイノブタも年産約二百頭かぎり。イノシシを父にブタを母に自然交配させるのですが、イノシシはその獰猛な面構えとは裏腹に、細やかな感性。年に数度しか交配のチャンスがありません。つまり、イノシシの恋は、年にわずかということになります。

そんな恋の結晶、イノブタの子どもたちはお父さんと同じく、シマシマ模様のウリっ子。愛らしい仕草を盛んにふりまいています。

スキーや温泉だけでは語りつくすことができない、雪山の醍醐味。王滝村の豊かな自然と素朴な人情がかもしだす絶妙な味わいは、舞い降りるパウダースノーもなんのその、心の芯までじんわり暖めてくれることでしょう。

イノブタの子ども、ウリンコたち

SKI・INFORMATION

◆スキー子供の日◆

－12月から3月まで－

木曽最大級のおんたけスキー場では、12月から3月までの第3日曜日、小学生以下のお子様にかぎり、リフト券が無料。この特典に加え、託児所完備というううれしいサービスも。普通ならあきらめてしまう小さな子ども連れのスキーも、おんたけスキー場なら大丈夫。夫婦仲良く滑ることができます。ぜひ、ご利用ください。

おんたけスキー場

王滝村 EVENT INFORMATION

- ■御嶽神社例大祭 ……7月27・28日
- ■御嶽教御神火祭 ……8月7日
- ■御嶽山霊神大祭 ……10月17・18日
- ■おんたけスキー場開き ……11月下旬

●交通のご案内●

◆お車をご利用の方

名古屋 ―中央自動車道（1時間）― 中津川I.C ―R19号（1時間20分）― 木曽福島（元橋） ―（40分）― 王滝村

◆公共交通機関をご利用の方

名古屋 ―JR中央本線（1時間35分）― 木曽福島（駅前） ―（50分）― 王滝村

●お問い合せ●

◆王滝村観光協会
〒397-0201長野県木曽郡王滝村　TEL0264－48－2257

◆FAX情報サービス
TEL0264－48－2258

◆交通情報
TEL0264－48－0011

◆気象情報
TEL0263－33－0177

ホームページ　url http://www.ontake.co.jp

特集

伊勢湾台風

第五編

伊勢湾台風復旧堤防計画と工事概要

被害の激しさと将来を重んじた政府は、抜本的な高潮対策事業に着手。「伊勢湾等高潮対策協議会」を設立し、河口・海岸部では計画堤防高を決めるなどの基本方針を決定。この方針に準じ、河川堤防や海岸堤防の本復旧工事に着手、昭和三八年には完了しています。

伊勢湾等高潮対策協議会の設立

壊滅的な被害を与えた伊勢湾台風。その応急復旧工事は、被災後三日目から始まり五三日目の一一月一八日には完了。被害発生三か月後の一二月、政府は伊勢湾台風の被害の激しさと将来を重んじ、「高潮対策事業に関する特別措置法」などを制定しました。それに先駆け、建設・運輸・農林などの関係各省庁と学識経験者などで構成される「伊勢湾等高潮対策協議会」が誕生しました。この協議会は、伊勢湾台風の被害が、海岸堤防・干拓堤防・防波堤防・港湾並びに漁港施設とそれに連なる河川堤防など、極めて多岐に及ぶことから、これらの施設を統一した基準で復旧するために設立されました。第一回の協議会は一一月二六日、以後、相次いで開催し、河口・海岸部での計画堤防高を決めるなど、対策事業の基本方針が決定されました。この災害復旧事業に加え、再度の災害を防止するために各施設の改良・新設事業も実施することとなりました。

高潮災害の系譜

そもそも伊勢湾は、古来より高潮被害を受けやすい地形。伊勢湾は湾口を太平洋に面するとともに、南北に細長い形状をしているので、伊勢湾の西側を南北方向に縦断する台風により大きな高潮が発生しやすく、昭和三四年発生の伊勢湾台風も、高潮と強風による吹き寄せなどの悪条件が重なったため、未曾有の災害を引き起こしたのでした。

江戸時代の大きな高潮災害として、天和元年（一六八一）、正徳四年（一七一四）、享保七年（一七二二）、寛政三年（一七九一）、文化五年（一八〇八）と安政二年（一八〇八）が挙げられます。中でも、享保七年の高潮災害は、伊勢湾台風に匹敵する大災害であったといわれています。

記録によれば、被害の程度は尾張藩領内で死者四五〇〇人以上、田畑の損害三九万石以上、荒廃地四・五万石相当、堤防破損二〇km、倒壊家屋一・七万件ともいわれ、近世以降に開拓された干拓地は壊滅状態になるとともに、内陸部でも大被害が出たといわれています。

以後、明治から昭和にかけて幾度かの高潮災害が発生。昭和二八年の一三号台風においては、高潮は小さく、被害は軽微でしたが、三重県や三河湾では、破堤を伴う大きな被害を受けました。

この被害を契機に「海岸防止事業」が行われ、堤防の構造型式や築造工法に検討が加えられて改良されていきました。

昭和三一年には「海岸法」を制定、三三年には「海岸保全施設築造基準」を策定。それから六年後に発生した伊勢湾台風の高潮災害は、築造基準の見直しと「三面張」に代表されるような海岸堤防の築造工法の確定を促すと同時に、高潮対策工法に大きな方向転換をもたらすこととなりました。

海岸堤防構造計画計画基本方針

海岸堤防の構造については、具体的に被災の原因、施工の条件などを検討し、次の基本方針に基づき、計画されました。

一） 堤防の型式は傾斜築堤式とし、原則として、表法の勾配は既設堤防にならう。

二） 堤防計画高は原則として※T.P.+7.50mとする。

台風平均満潮位T.P.+0.97m

（伊勢湾台風最高潮位時刻の推算潮位0.34m）

伊勢湾台風の最大偏差3.55m

計画潮位4.52m

衝突波高2.90m

衝突波頂高7.42m

計画堤防高7.50m

※T.P.（東京湾中等潮位）

三） 堤防法線については、既設利用個所が多いため、従来の法線を根本的に変えることはできないが、極力波力が収れんするような法線は避ける。

四） 樋門を設置する個所については弱点とならないよう強固な構造とし、前後の堤防に円滑に取りつける。

五） 天端幅は6.0m程度とする。

六） 堤体の天端及び裏法はコンクリート等の被覆工を施す。

七） 護岸の水密生を保つため、特に継手部分に止水板を挿入し、かつ、間隙水圧による揚圧力に対しては継ぎ鉄筋を考慮する。

八） 波返し部分は、法覆工の最上部に曲面を設けたタイプで軽い構造とし、弾性支床上のはり構造として計画波圧に対して設計する。

九） 表護岸基礎には矢板（鋼またはコンクリート矢板）を打ち、前面には捨石を施す。

海岸堤防の計画堤防高

計画堤防高はそれぞれの地点の背後地の条件、堤防構造の特性、堤防法線の局地的特性及び前面の海底地形あるいは港湾、漁港施設の保持並びに防波堤の効果の諸点を考慮して定めることになり、建設省所管の区域は次の通りです。

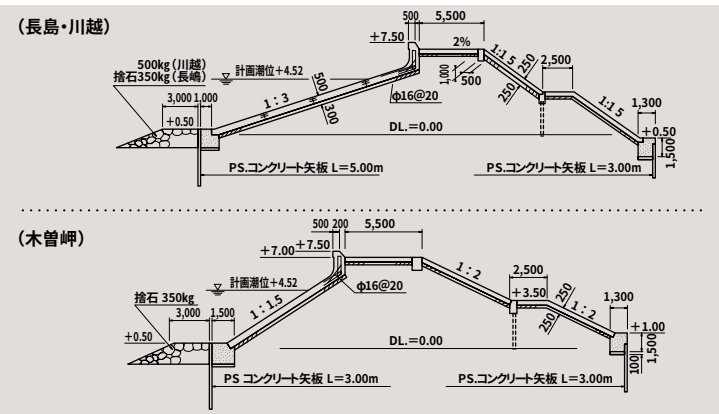


図1　海岸堤防標準断面図

一）南陽、海部、木曽岬、川越（一線堤）は T.P.＋7.50m

二）鍋田、川越二線堤は、農林省所管一線堤があるので、原形高 T.P.＋5.0m（鍋田）T.P.＋4.3m（川越）の復旧にとどめる。

なお、防波堤内に包含される地域（南陽、海部海岸）は前述を計画高 T.P.＋6.20m に変更することとしています。

河川堤防構造計画基本方針

木曽三川の高潮区間は、図2に示す通り。河川高潮区域の河川堤防高は、海岸堤防高の考えと同じで、計画潮位に波高を加えたものとしています。特に、河川堤防として計画上考慮した点は、次の通りです。

一）特別の個所以外は築堤式三面法覆方式とし、断面の均一化並びに統一を図る。

二）湾曲している堤防は、できるかぎり法線の整正をする。

三）決壊または澪（みお）止めした区域、川裏に潮遊びのある個所などの弱体部では構造の強化を図る。

四）耐震、地盤沈下、圧密沈下などに対しては充分考慮する。

五）将来、堤防の維持管理が容易である構造とする。

六）継目構造は特に入念に施工し、堤体土砂の流出を防ぐ。

七）裏込材料の吟味、土工管理などを特に注意し、堤体土砂の容積変化を防ぐ。

八）直接、海に面している区域、湾曲部の堤防、前面の深掘れ区域などについては波力の減殺を考える。

九）工事施工の迅速、低廉化については充分考慮する。

建設省直轄海岸工事

一）南陽海岸堤防

昭和三四年度はポンプ式浚渫船による築堤用土砂の採取を行い、コンクリート矢板基盤工と表護岸工を施工。その後、順次工事を進め、三七年に全工事を完了。

二）海部海岸

昭和三四年は築堤と資材運搬用道路造成のための土砂採取の浚渫工事を行い、全壊部とそれに接続する部分を重点的にコンクリート矢板基礎工と表護岸を施工。昭和三六年七月には集中豪雨の被害を多少被ったものの、三七年に全工事を完了。

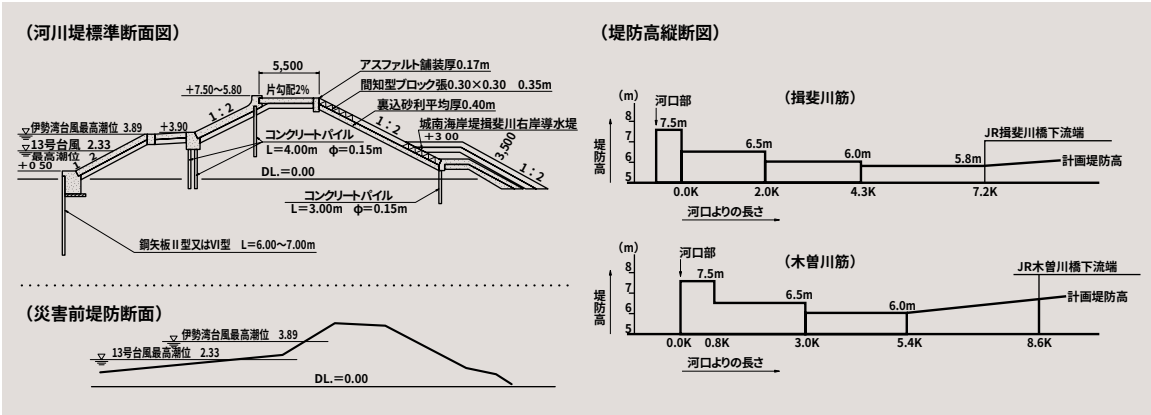


図2　高潮対策河川堤防標準断面図

三）鍋田海岸堤防

昭和三四年度には破堤箇所の築堤土砂採取の浚渫工事を行い、全壊部分を重点的にコンクリート矢板基礎工と表護岸を施工。昭和三六年には破堤箇所の復旧工事を完了。

四）木曽岬海岸堤防

昭和三四年度はポンプ式浚渫船により木曽川河口部で築堤用土砂採出、運搬道路造成工事に着工。堤防工事はコンクリート矢板基礎工と表護岸を施工。昭和三六年には本事業の直轄施工の海岸として、最初に完成。

五）長島海岸堤防

昭和三四年度は、全壊箇所を重点的に着工し、深掘れ箇所は鋼矢板基礎工、その他はコンクリート矢板基礎工とし、三七年、全工事を完了。

六）城南海岸堤防

昭和三四年、本復旧工事に着工し、三六年に完成。揖斐川右岸から町屋川左岸の災害復旧は、揖斐川の高潮区間として施工。

七）川越海岸堤防

当初、三重県が着工したが、三五年からは建設省直轄事業に編入し、三七年全工事を完了。

工事中の沿岸堤防

建設省直轄河川工事

一）木曽川左岸堤防

応急仮締切完了後、二〇万tの土砂採取に着工、以後順次工事を行い、引堤箇所の加路戸堤防と家屋の移転で遅れた木曽岬堤防を復旧し、三八年度に全工事を完了。

二）木曽川右岸堤防

昭和三四年、殿名第一・同第二・葭ヶ須・横満蔵・松陰第一の各を一斉に着工。三七年度は、鏡ヶ池樋門との取付けや県道・町道等への連絡坂路などを施工し、三八年にはすべて完了。

三）揖斐・長良川左岸堤防

昭和三四年、都羅堤防・伊曽島第一堤防の工事に着工、三七年度には伊曽島・松ケ島堤防の残工事と舗装工事を完了し、三八年、全工事を完了。

四）揖斐川右岸工事

応急仮締切工事に引き続き、ポンプ浚渫船による仮締切箇所の緊急補強を行うとともに、順次工事を進め、昭三七年には城南排水機場の改築と取付堤防、桑名堤防、住吉堤防の根固工及び全区間の天端舗装などを行い、三八年全工事を完了。

静けさをとりもどした長良川左岸

■参考文献
『伊勢湾台風復旧工事誌・上巻』
建設省中部地方建設局
『木曽三川治水百年の歩み』
建設省中部地方建設局
『次代にひきつぐあの教訓伊勢湾台風』
伊勢湾台風30周年事業実行委員会
『高潮堤防緊急嵩上工事誌』
建設省木曽川下流工事事務所

伊勢湾高潮対策事業、本復旧工事にまつわる思い出

鈴木 嶺夫氏

略暦
山梨県甲府市出身
大正7年9月22日生

元　中部地方建設局 河川計画課長補佐
元　中部地方建設局 河川工事課長
元　中部地方建設局 掛川及び磐田工事事務所長
元　川崎製鉄株式会社 建材技術副部長
元　川鉄商事株式会社 建設開発部長
元　川鉄鉄構工業株式会社 顧問

あの猛威をふるった伊勢湾台風から四〇年。

あの猛威をふるった伊勢湾台風から四〇年。

当時、伊勢湾台風に尽力された上司のほとんどの方々がすでに他界され、今や、この世にいない。それで私に白羽の矢が立ったようである。伊勢湾台風に関する記録や記事は、多くの人によって記され、且つ、語られてきた。しかし、このことはいくら語られても語り尽くせるものではない。そこで、不肖、恐縮しつつお引き受けした。しかし、四〇年の歳月は、楽しかったことも、辛かったことも薄れる一方である。その中でも今も尚、私の記憶の中に再現されるケースも幾つかもある。今はそれらがすべて美化され良い思い出になっている。その中から本復旧にまつわる二、三の秘話を披露して責任の一端を果たしたいと思う。

先ず本復旧工事に着工した当時について語ろう。昭和三四年十一月十八日、難行を極めた長良川左岸、白鶏地区の応急仮締め切りを最後に波堤した全ヶ所から海水は遮断された。直ちに補強工事を進める傍ら、本復旧工事の発注準備を進めた。

何しろ、当時は電気なし、水なし、家なし、路もなし、の無い無いづくしの中で一時も早く着工しなければならず、こうした焦りの中で現地事務所の人達のあの不眠不休の努力の様は、私の筆を持ってしては到底表すことは出来ない。兎に角、業者に一時も早く位置についてもらうと言う意味で、延長的にも高さ的にもその一部であれ、発注の形態の整ったものから発注し、後に追加工事または、変更工事で補完して行くと言う形式をとらざるを得なかった。

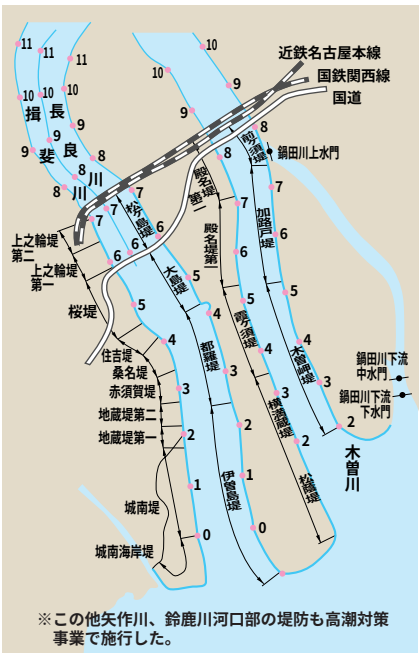
一、三四年度中に基礎工事を完了する。
（綱矢板、コンクリート二次製品等は別途特注の方法をとった）
一、三五年出水期までに計画洪水位まで概成する。

ということが至上命令であり、今考えると無我夢中で、ひたすら、同じ目的に向かって、時を争って突進していた。よごれた水防服に身を固め血走った眼をして机に向かっていたスタッフ達、大声を挙げて現場を駆け回っていたスタッフ達、彼らを激励している幹部達の一人一人の顔が今でもくっきりと脳裏に焼き付いている。それにもかかわらず、あの頃主役だった人達の大部分が過去の人達となってしまった、悲しいことである。

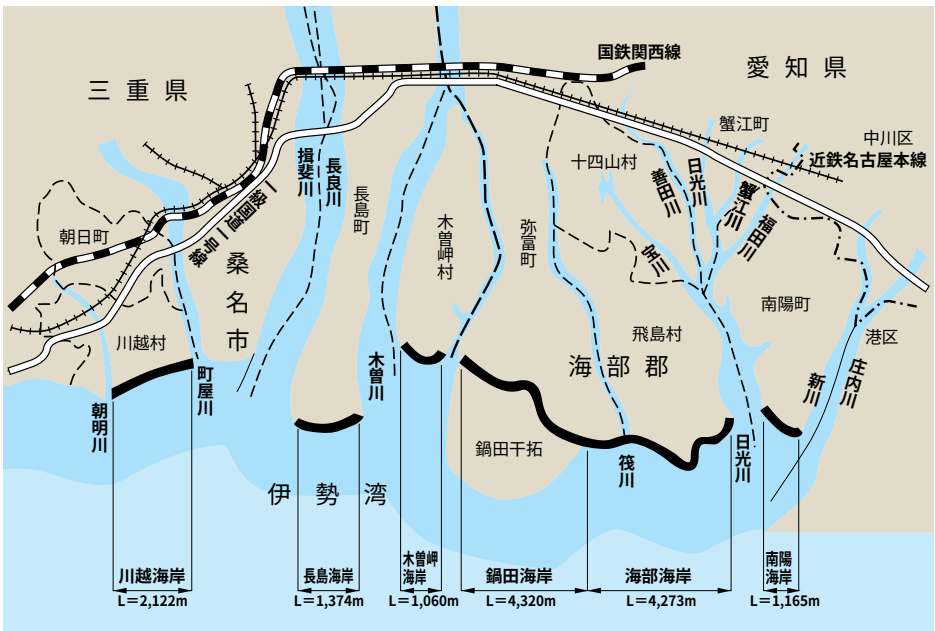
その後、多少なり落ち着きを取り戻したのは三五年の出水期の後であったと思う。そしてそれまでの出来事は統べて夢のような気がする。

かくして一二月二五日から指名競争入札が行なわれた。

指名業者を決定するに当たり、中部地建の推薦した業者と大臣案との調整がかなり難航した、それは、このような緊急且つ大規模工事に地元業者を参加させることの是非が問われたらしい。しかし、当時の事務所長（渡辺豊さん）の推薦趣旨説明の熱意によって地元業者の参加が叶ったと聞いている。あの日、委員会での緊迫した様を私は傍で視ていたが、今でも忘れていない。



河川工事施行区域図



海岸別施工区域図

入札を終えた業者は契約を済ますと、直ちに工事に着手した。工事地域及び工事延長の差こそあれ、ほぼ、同じ復旧断面の完成を目指し、一斉にスタート、一大建設コンテストの様相を呈した。特に大手業者は新たに工事部隊を編成することなく、例えば鹿島建設はゴルフ場建設部隊を、大成建設は地下鉄の部隊を、熊谷組はダムの部隊をというように、夫々の施工していた工事を一時中止して急遽当災害現場に、駆けつけたものであった。従って、その部隊の特徴が随所に現れコンテストの興味を更に倍加させた。兎に角、各現場において現場代理人の影響が如何に大きいかを改めて認識させられた。

木曾三川の下流部流域の地形を大別すれば各川の扇状地、流路に沿った自然堤防、デルタ、干拓地、埋立地等で形成されているとは言え、一様に軟弱地盤のゼロメートル地帯で地盤沈下が今尚進んでいる。

従って、高潮対策事業の設計に当たっては堤防断面の安定性、波圧の減殺、堤体土砂の容積変化、耐震又は地盤沈下に対する考慮、堤防内圧の減殺、故障の早期発見、並びにメンテナンス等の容易さを十分配慮した。その為、現場説明書、仕様書に忠実に施工している限り、問題はないが工事の促進を図るあまり、土工工事が粗雑になりやすく、所定の締め固めが出来ていない場合が度々あり、これが矢板打ちの施工管理と共に施工の優劣を計る最大の着眼点であったと聞かされていた。

我々は設計審査に当たり、工事費の低減には特に留意し物価動向、労務状況の実体を把握して設計積算に反映してきたつもりであった、それも今になって思えば疑心暗鬼の積算も幾つかあった。例えば、単価表の中の雑品費は単価のラウンド化を図る端数操作であった、然し単価表の数字であるだけにサムアップされると馬鹿にならない額になり驚いたことも度々あった。また、各種の損料にも問題があった。営繕損料はこの時のように、短期間に膨大の工事量を施工した例もなく、民家の借り上げも望めず、労務者も遠隔地から雇用せざるを得ない状態では、相当高くなることは分かっていても適性価額を見いだすことは困難であった。業者から増額の陳情に悩まされたことも度々あった。

機械損料に付いては建設省において現場損料、修理費などの実績データが充実していたので、現場で使用されている実機械について再積算をして設計変更をしたと思う。

綱矢板の損料については、機械貸付料基準に基いて算定していたが、むしろ、市場価額に比べて高く、以前、会計検査院の指摘もあり、我々としては、各業者や他官庁の実態調査をして、それらを参考に建設省の積算基準に照らし決めたと思う。

いずれにしても、受け取るべき構造物そのものの工事費の積算以外は、損料にしても、仮設工、準備工にしても業者の裁量に委ねる工種の積算は適性価額を決めることは至難の業であり、その都度、口角泡を飛ばしながら、議論したのも懐かしい思い出となった。細かいことは忘れたが、当時、我々はお互いに強い使命感に燃えながら、業者ともども一丸となって、復旧工事に立ち向かっていたことは今でも誇りに思っている。

次に鍋田川の高潮対策事業について述べよう。鍋田川の当核事業を施工するに先立ち上流の尾張大橋、関西線鉄橋への影響、漁業権の設置状況、用水、舟運等の利水状況、塩害、復旧する構造物など、あらゆる面から比較検討しつつ次の三案について具体的検討を行なった。

木曽川左岸鍋田川上水門（元鍋田川分派点）

第一案　現堤補強案

現在の堤防延長一四キロメートルを高さ七、五メートルから六メートルに漸減する案。

第二案　水門による締切案

水門開口延長一〇〇メートル、洪水量、一〇〇〇立方メートル毎秒の疎通能力を持つ水門を構築する案

第三案　締切案

上下流に締切堤を設け、用水、舟運の為、開口延長一〇メートルの水門を設け洪水流量は木曾川本川の浚渫によりまかなう案

そして三五年六月大蔵省説明を経て第三案が河口部の水路維持に難はあるものの、施工性、工事費、将来の維持管理等、他案に優れているため第三案で施工することに決定した。

この第三案の概要について記すと河口部においては隣接する木曾岬海岸堤防と同じくTP七、五〇メートルの三面張りコンクリート堤防四五五メートルを設けるとともに舟運及び排水のため幅一〇メートルのスルースゲートの水門一基を設ける。また、上下流部に中仕切堤、延長二七五メートル（これに付属して巾五メートル二連の水門を併設）を設け舟運の為の閘門を代用させる、分派点においては隣接する木曾川左岸堤と同高のTP六、三メートルの堤防延長一七五メートルで締め切る。

尚、従来鍋田川を取水源とする用水に支障無きようにまた、塩害が新たに生じないように幅五メートル、二連の水門を併設する。この締め切りにより規定計画の洪水流下量一〇〇〇立方メートル毎秒は遮断されるので、本川にこれを付加し分派点下流の計画流量を一一、五〇〇立方メートル毎秒を一二、五〇〇立方メートル毎秒とし水位の上昇を来さぬように、浚渫を行なう。

現在の鍋田川河川敷

木曾川左岸加路戸地先の引堤に伴う潰れ地相当分は、鍋田川を埋立てて土地造成し、等価値交換することで基本的な同意を得たが次のような手続きを要した。

一、河川の公用廃止
二、金銭補償の範囲を超えた農地造成の承認。
三、潰れ地の評価
四、廃川敷地処分による国有地編入
五、造成地補償工事の施工
六、造成地の評価
七、交換時の評価調書作成
八、交換手続き申請
九、残農地の大蔵省への引き継ぎ
一〇、自作農経営安定農地として農林省へ所管替え
一一、農民への売り渡し

尚、愛知県と三重県の県境が鍋田川の流心であった。従って流路変更による県境決定にも困難を極め、未だ解決していないと聞いている。

宅地造成に当たっては、民生安定と工事の早期完成上先行投資を迫られた。また、集団移転計画は、地元事情から幾度も変更を余儀なくされた。たまたま会計検査の際に、宅地造成地の一部に、予定者が移転せずに空地になっていたのに眼をつけ、これは国損工事ではないかと指摘された。私は当時、中部地建の担当工事課長として、応答の任に当たっていたが、この時、はたと困ったが勇を奮ってお答えした。検察官、この件については幾度問われても、如何に責められても、私の答えは「事情ご賢察」の五文字以外はありませんと、私のこの必死の答弁に、検察官も渋い顔して、わかったと一言、言われた。

その後、検査院の中で私は中部のタヌキと渾名されていたと第三者から聞かされた。

（記憶の誤りにより、記述にミスがあった折りはお許し下さい。）

民話の小箱

下島（したじま）の弘法清水

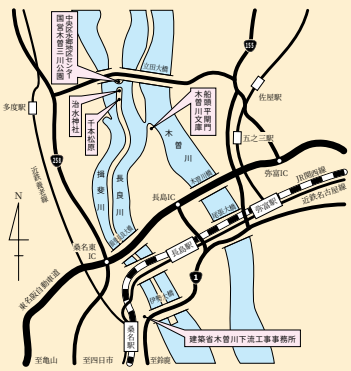
むかし、むかしのこと。
暑い夏の盛りに、墨染の破れ衣を着け、
見るからにみすぼらしい風態をした一人の旅僧が、
鞍馬峡の景色に見ほれていました。
ちょうどその時、まぐさを背負って下の川原の方から
村人が一人、汗水流して登ってきました。
村人を見つけた旅僧は、
「これから御嶽山へ登ろうと思っているのだが、
道がわからなくて困っているところ。どうか道を教えてほしい」
と、尋ねました。
「アイアイ」と快く返事をしたお百姓は、
旅僧の先へたって案内する道すがら、いろんな話をしました。
旅僧のいうことには、
「こんなに平坦な土地があるのに、なぜ、水田としないのか。
そうすれば、他所から馬に苦労をかけてお米を運ばずにすむであろうに」
「ウラアの祖父も、父親も大分やってはみたが、用水が引けんので、
途中で止めてしまったが、惜しいことをしたもんだ」
と、百姓は答えました。
すると旅僧は、
「よし。では、早速、水を出してやる」といって、
もっていた錫杖を二～三回、地中に突き刺すと、
不思議なことにみるみる清水があふれんばかりに湧きだしてきました。
「田植えになれば、もっと出るようにしておいてやる」
小躍りをして喜んだ百姓は、旅僧にていねいに礼を言ってわかれました。

それからは、村人みんなで開田に努め
どんな日照り続きでも、ここばかりは決して涸れることがなく、
水が冷えて青立つこともありませんでした。

もともと、米作には不適な山村に生まれた稲田。
それもこれも、こんこんと湧きでる清水のおかげです。
この不思議なできごとに村人たちは、
「あの旅僧は、弘法様にちがいない」
と話しあうようになり、「弘法清水」と呼ぶようになりました。

（王滝村の民話より）

木曽川文庫利用案内



《開館時間》午前9時～午後4時30分
《休　館　日》毎週月曜日・祝祭日・年末年始
《入　館　料》無料
《交通機関》国道1号線尾張大橋から車で約10分
名神羽島I.Cから車で約30分
東名阪長島I.Cから車で約10分

《お問い合わせ》
船頭平閘門管理所・
木曽川文庫
〒496-0947 愛知県
海部郡立田村福原
TEL(0567)24-6233

編集後記

木曽三川の下流域では、いくつものカモ類の群が水面にただよい、道行く人を楽しませています。
木曽川には、例年白鳥が数羽見られます。バードウオッチングを楽しまれては・・・。
今号の編集にあたっては、王滝村並びに関係のみなさんに大変お世話になりました。また、元中部地建工事課長の鈴木嶺夫氏にもご協力をいただきました。誌面を借りてお礼申し上げます。
次回は、愛知県祖父江町を特集します。

木曽川文庫ホームページ
http://www.kisogawa-bunko.cb.moc.go.jp

●表紙写真●
上：雪の御嶽　　下左：氷結した新滝
下右上：「MI-TAKE」シーボルト・随行画家・ナダールが天保9年(1838)に描いた御嶽
下右下：王滝口を開いた普寛行者を祀った普寛堂

『KISSO』Vol.29　平成11年1月発行
発行：建設省中部地方建設局木曽川下流工事事務所　〒511-0862三重県桑名市播磨81　TEL（0594）24-5715
木曽川下流工事事務所ホームページ　URL　http://www.cb.moc.go.jp/kisokaryu
制作：財団法人河川環境管理財団　〒450-0002愛知県名古屋市中村区名駅四丁目3番10号（東海ビル）　TEL（052）565-1976